

雁の記

川越散策日記

荒牧 澄多

(高二十七回)

新河岸川を探る 起点を訪ねる

今回は、新河岸川を探ってみましょう。

現在の川は、川越の市街地を南西から北へ、そして南へと取り囲むように流れている市民にもっとも身近な存在です。わが母校も、初雁公園を介して近接しています。

川越を起点に、不老川、九十川、柳瀬川、黒目川、

白子川などと合流し、北区

の岩淵水門で墨田川に入る

延長三四・六キロメートル、

流域面積四一一平方キロメ

ートルの一級河川です。池袋から東武東上線に乗って川越駅に至るまでにいくつもの川を渡りますが、すべて新河岸川にそそいでいる支流です。

では、その起点はというと、そこには「一級

河川新河岸川起点」と記された石碑が立

っています。場所は、川越市駅の西、

山村学園の前の道を南西に行き、川越線

の踏切を越えた西側にある八幡橋（やわたはし）の四〇メー

トルほど上流です。橋に立つと川の合

流点が見えますが、そのと



川の起点の石碑

が現代の新河岸川の始まりです。碑は白御影製で縦横三〇センチ、高さは七〇センチほどの小さなものです。よくみるとこの石には縦に線が入っていますが、これは、石を切るときに鋸をいれた跡でしょう。もう少しきれいに仕上げればいいものを…



八幡橋

右側から流れてきているのは、狭山市の笹井堰で入間川から分流した赤間川。左側の小さなものは、武蔵野台地の絞り水を集めたものでしょう。源流を探る旅はさておき、今回はここから下流を目指します。



新河岸川起点のある合流点

この合流点は、明治十四年のフランス式彩色迅速測図にも載っています。川の流路は今も変わりません。道も当時のものはあまり変わっていません。異なるのは、川の西にあった八幡神社が無くなったことでしょう。明治四一年

に野田神社に統合されたようです。その跡はすでによく分りません。

しかし、みなさんお気づきになられたように、橋の名前にその面影を留めています。長さ約六・五m、幅四mほどの小さな橋です。架けられたのは、昭和三一年十二月、銘板には「川越市長 伊藤泰吉、土木課長 恩田得也、設計監督 猪鼻正明、施行者 田村工業所」と記されています。

コンクリート製で、親柱は、四十センチ角の柱の上に笠を載せ、その上にピラミッド型の小屋根をつけています。それまでに多く建てられてきた石造の親柱を意識してデザインされたものでしょう。なお、仮名で書かれた「やわたはし」の「は」の字はわざわざ「者」を崩した変体仮名を使っています。これも古き時代を求めた名残でしょうか。

現役川高生の部活人数構成を比較してみました

現役の新聞部の生徒による、川越高校新聞から現在の、部活の状況をピックアップしてみました。

運動部の人数総数六〇二名を見ると、蹴球部の一位を始めとして現在のスポーツの人気度に比例しているかなと納得するのと同時に、武道系の柔剣道の人数が少ないのが、少し残念な気がします。

文化部総数五二五名の構成をみると、物理部の一位に次いで、三位に料理部があるのに少し驚きます。

クイズ研究部なども私たちの時には、想像できない部活もあるのも、自由な校風の表れかとも思います。

部活名	1年生	2・3年生	合計
1 物理	24	44	68
2 吹奏楽	16	41	57
3 料理	28	27	55
4 軽音楽	20	33	53
5 古典ギター	23	29	52
6 生物	16	20	36
7 美術	6	25	31
8 囲碁将棋	7	24	31
9 クイズ研究	8	20	28
10 化学	7	14	21
11 音楽	3	13	16
12 地学	7	8	15
13 弦楽合奏	6	8	14
14 英語	6	6	12
15 写真	5	6	11
16 放送	3	7	10
17 文芸	3	6	9
18 新聞	3	4	7
19 書道	1	4	5
20 演劇	0	4	4
21 映画視聴覚研究	0	2	2

部活名	1年生	2・3年生	合計
1 蹴球	27	39	66
2 陸上競技	29	31	60
3 バドミントン	15	35	50
4 ラグビー	33	15	48
5 弓道	20	25	45
6 水泳	12	32	44
7 庭球	10	29	39
8 排球	11	27	38
9 籠球	4	33	37
10 野球	7	30	37
11 卓球	6	29	35
12 山岳	5	20	25
13 硬式テニス	7	14	21
14 応援	13	7	20
15 剣道	6	7	13
16 柔道	2	10	12

第二十回ゴルフコンペ

梶田 進一 (高二十回)



川越カントリーで行われた37名参加のコンペ

優勝 仲村一夫様 (十六回)

準優勝 齊藤良雄様

三位 小峯昌一様

ベストグロス賞

(西コース) 四十一小松淳様

(中コース) 四十三馬場弘様

ニアピン賞 平野満様

ニアピン賞 粕谷孝志様

という結果でした。

前回と同じく、今回も状況を考え、楽しみにしていたパーティをやめて前半のハーフ集計での成績とさせていたいただきました。次回こそ行動制限のないゴルフで、心置きなく、笑顔で乾杯できることを願っています。

事務局からのお願い

年会費二千円未納の方は、お早めに納入をお願いいたします。

発行人

会長 岩堀 弘明

事務局 川越市六軒町一三十三

題字 吉沢翠亭義和

印刷 (株) 櫻井印刷所

日時 二〇二二年三月二十四日(木) 晴れ
会場 川越カントリークラブ
前回に引き続き、コロナ禍という状況でありましたが、三十七名の参加をいただき盛況に開催されました。成績は以下の通りです。